

# 2016年度リフレッシュセミナー参加者レポート



セミナーの様子

## ■第1日目

3月5日～7日までの3日間、全国設計事務所健康保険組合「熱海リフレッシュセンター」でJIAリフレッシュセミナーが開催されました。全国支部と運営会員の22名が参加しました。1日目、「建築の拡張」をテーマとして(株)ライトの古澤大輔さんに講演いただきました。近作の東小金井中央線高架下プロジェクトで話題となった建築家です。エリアでのフリーマガジン発行、対話型イベントによるコミュニティーの醸成、核となる場所をテナント誘致と併せて事業計画化、提供者を説得して高架下に集いの場を創生、引き渡し後のイベント企画や施設運営も実施している事例として紹介されました。計画ありきから始まる建築の発生過程を廻り、種まきの段階から携わる手法に皆興味深々、古澤氏に多くの質問が寄せられました。古澤さんの組織は建築コンサルデザインなど4ジャンルで独立採算とのことですが、「建築の拡張」として類のないオールマイティーな古澤さんのスタイルに「専門家に任せるべき」「建築家の職能を超えている」「採算性」など疑問視する意見も出てQ&Aは講演後の懇親会まで多いに盛り上りました。

独自の価値観と手法で专业化・分業化に逆行し、自らボーダレスに行動する古澤さんのバイタリティーから新しい何かが生まれる予感を感じました。



伊藤彰彦 (JIA 愛知) |  
パパカンパニー

## ■第2日目

午前には前日の古澤大輔先生のセミナー1を受け、ディスカッションとそのまとめ。新しい視点

から「建築家の職能」について考え、「今後どういう建築をつくっていくか」、「自身の事務所をどうしたいか」という課題が示された。4つのグループに分かれ、課題についてその目的・手段・アクションを討議した後、各々が発表した。

午後は「建築の深化」として、構造家・山田憲明先生のセミナー2が始まった。テーマは「木構造のコンセプトとデザイン」。伝統木造の技術を活用した天守閣の復元、極小材でつくるレストラン、定尺材や地域材使って大空間を構築した町役場や幼稚園など、既往の構法を超えた事例が数多く紹介された。構造システムは素材・かたち・接合の3つの要素からなり、これらを統合するシステムを構築することが構造設計の本質と語られた。

夕食後のネットワーキングセッション2では山田先生を囲み、特に若手の参加者が意匠設計者と構造家とのコラボレーションの取り方について熱心に聞いていた。

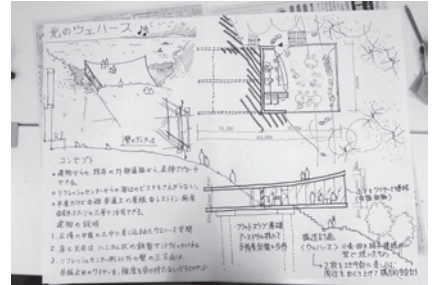
当施設は健康・体力づくりを目的に開設・運営されている。昼食後のフリータイムではプールを利用する参加者もいた。筆者は近接のMOA美術館を訪ね、期間限定で公開される国宝「紅白梅図屏風」を幸運にも観賞できた。



澤村喜久夫 (JIA 愛知) |  
伊藤建築設計事務所



上 | 2日目集合写真  
下 | 熱海リフレッシュセンターの芝生広場



上 | 3日目のグループ設計の様子  
下 | 八木班が提案したカフェレストラン

## ■第3日目

3日目は、建築家と構造家のコラボレーションというテーマで、会場である熱海リフレッシュセンターの芝生広場にカフェレストランを計画しました。今回構造設計者が2名参加していることもあり、山田先生を交え3グループに分けて取り組みました。私のグループは静岡、東京、福島、兵庫、長崎。構造は福島の濱尾さんです。10m角、100㎡の平屋という条件でスパンをどう飛ばすかが考えどころです。芝生広場は建物際から海に向かった先端までの間に6m程の傾斜があります。私たちは、建物内から広場越しの海への眺望を邪魔しないように、また散策途中で訪れることができるようにと考え、斜面先端付近にウエハースのようにスラブを水平に2枚差し込み、その間をカフェにする計画としました。私は断面図を担当し、共振を抑えるために屋根スラブを上に戻すことを提案しました。制限時間2時間の間に構造的工夫が双方から飛び交い、BIMのように平面と断面をライブで調整しながら建築がどんどん生み出されていきました。お互いの手の動きを見つめながら、できる人たちとやることこんなにも楽しいのかと実感した素晴らしい経験となりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。



八木紀彰 (JIA 静岡) |  
八木紀彰建築設計事務所